



# 素材研究 (海外)

# リクヴィル



コロンバージュ様式の家々が立ち並ぶリクヴィル



おとぎの国から抜け出したようなパティスリー



コルマルの家並も典型的なアルザスの風景です ©OT Colmar G. Wuerth



クリスマスシーズンのコルマル ©CRTA Zvardon



ストラスブール大聖堂のプロジェクションマッピング © Philippe de Rexel

ブドウ畑の緑に囲まれたリクヴィルの美しい景観

## ワイン街道に輝く「アルザスの真珠」 フランスの最も美しい村にも認定

17世紀以降、フランスとドイツの間で領有権をめぐる争いが続いたアルザス地方。欧州議会が置かれたストラスブールから南へ約70キロに位置するリクヴィルは、フランスにあつてフランスでない、ドイツ的ながらドイツでもないというアルザスを象徴する存在です。JATAによる「ヨーロッパの美しい村30選」に名前を連ねたリクヴィルには、フランスの新しい地方の魅力を発信する役割も期待されています。

### 魅力的な景観を生む独特の建築様式

「アルザスの真珠」と呼ばれるリクヴィルは、フランスの最も美しい村にも認定されています。ブドウ畑の豊かな緑に囲まれたのどかな環境に立地する美しい町は、アルザスの建築様式であるコロンバージュの建物が並び、カラフルに塗り分けられた家々の壁は不思議に調和して、独特の魅力を放っているようです。壁面の色は赤、青、緑、黄色と異なり、屋根の形状もまちまちであるにも関わらず、魅力的な景観が形成されているのは、多くの建物が伝統的なコロンバージュ様式を踏襲しているため、町並み全体に統一感を覚えるから、とも言われています。

アルザス地方では古くから採取される石材が限られていたため、民家の多くは木造

建築で、木の柱や梁を持つこの独特の建築様式が定着したのです。

通りに面したレストランやパティスリー、雑貨屋などのお店には、今も残るドイツ語表記を補うため、商売を表す看板が飾られており、旅行者の目を楽しませてくれます。

### ローマ時代に遡るワイン造りの伝統

フランス東部に広がり、ドイツとの国境に位置する東側のライン川と西側のヴォージュ山脈に挟まれたアルザス地方では、ローマ時代にワイン造りの技術が持ち込まれ、現在も二面のブドウ畑が広がっています。ブドウ畑の間には、100を超える町や村が点在し、約170キロにも及ぶ「アルザスワイン街道」が続いています。ポルドーやブルゴーニュと並ぶフランスの三大ワイン街道の一つに数えられるほどのです。リクヴィル観光の拠点ともなるコルマルは「アルザスワインの首都」とも呼ばれ、その周辺には多くの魅力に溢れた町や村が点在しています。

コルマルから10キロほどのリクヴィルは、16世紀にアルザスで初めて要塞化された町で、村の周囲には二重の城壁が巡っており、13世紀末に建造された最初の城壁には、防衛を担っていた3つの塔も聳えています。

フランス観光開発機構の金田レイラプロモーションマネージャーは、「リクヴィルをはじめアルザスワイン街道の素材を積極的に商品化して、フランスの地方の魅力をアピールしてほしい」と呼びかけています。